

2022年12月期 第1四半期決算説明会

(第1四半期決算補足説明資料)

2022年5月11日
株式会社キッツ

【注意事項】

本資料に記載されている当社及び連結子会社の計画、戦略及び業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、さまざまな要因により、見通し等と異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。

目次

1 第1四半期決算の概要

2 通期業績見通し

3 最近のトピックス

－補足データ－

1 第1四半期決算の概要

2 通期業績見通し

3 最近のトピックス

-補足データ-

2022年12月期 第1四半期 業績

単位(百万円)

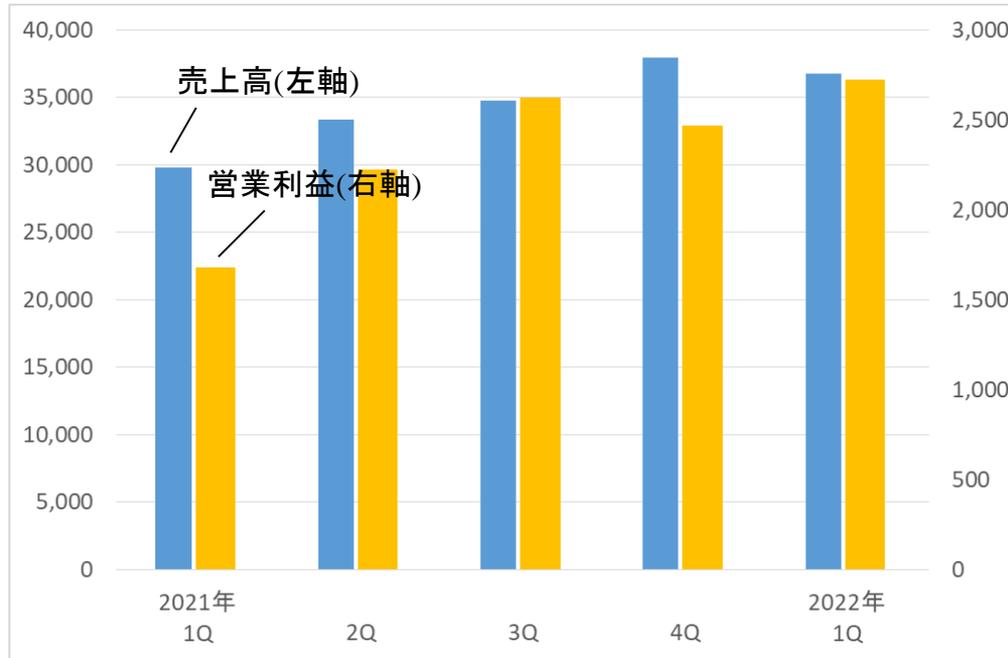
	2021年 12月期 1Q実績	2022年 12月期 1Q計画	2022年 12月期 1Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	29,772	34,500	36,750	6,977	23.4%	2,250	6.5%
内、バルブ事業	23,683	27,100	28,773	5,089	21.5%	1,673	6.2%
内、伸銅品事業	5,772	7,100	7,643	1,871	32.4%	543	7.7%
営業利益 (率)	1,677 (5.6%)	2,100	2,721 (7.4%)	1,044	62.3%	621	29.6%
内、バルブ事業	2,433	3,100	3,803	1,370	56.3%	703	22.7%
内、伸銅品事業	187	100	▲ 62	▲ 250	—	▲ 162	—
経常利益	1,694	2,000	2,832	1,137	67.1%	832	41.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	918	1,300	1,866	948	103.2%	566	43.6%
ドル:対円	107.15	115.00	117.81				
ユーロ:対円	128.45	130.00	131.57				
電気銅建値:円/トン	937,000	1,200,000	1,211,000				

注) 売上高及び営業利益は、バルブ事業と伸銅品事業のみを表示しておりますが、合計はその他を含む連結合計であるため、一致していません。

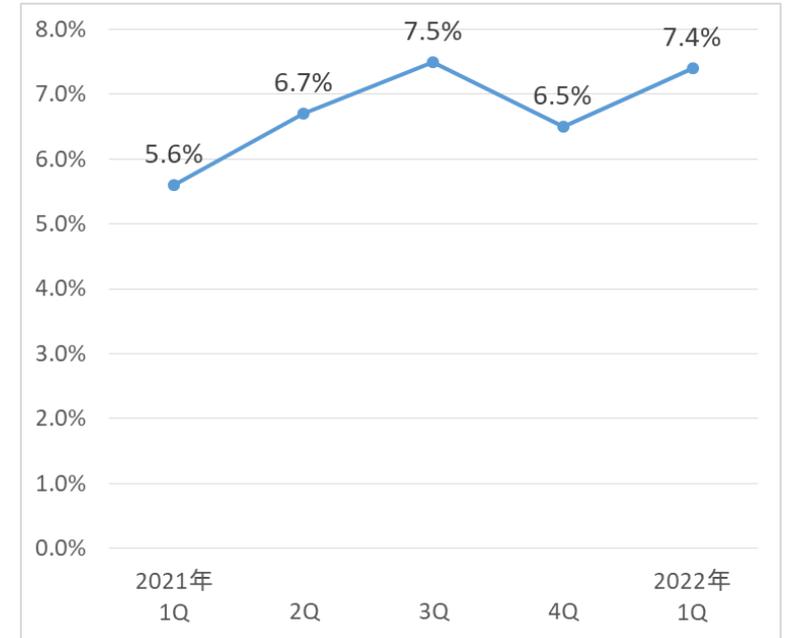
四半期(3ヵ月)業績推移

(百万円)

売上高/営業利益



営業利益率



(百万円)

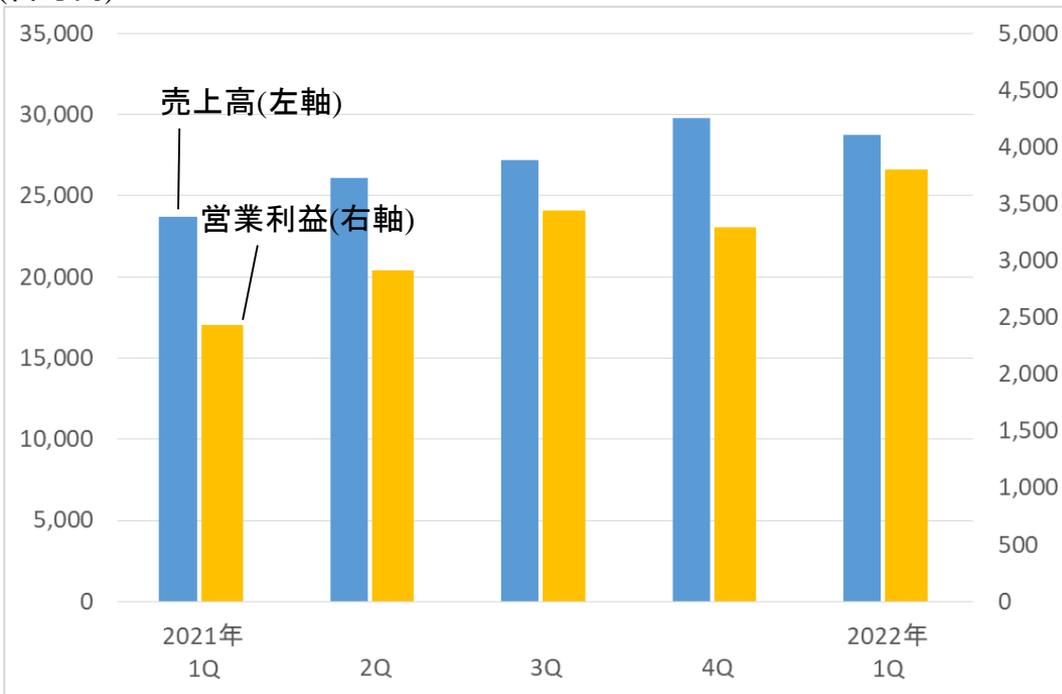
	2021年12月期				2022年12月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	29,772	33,345	34,729	37,942	36,750
営業利益	1,677	2,224	2,621	2,467	2,721
経常利益	1,694	2,263	2,706	2,310	2,832
親会社株主に帰属する 当期純利益	918	1,144	1,764	1,126	1,866
営業利益率	5.6%	6.7%	7.5%	6.5%	7.4%

バルブ事業 四半期(3ヵ月)業績推移

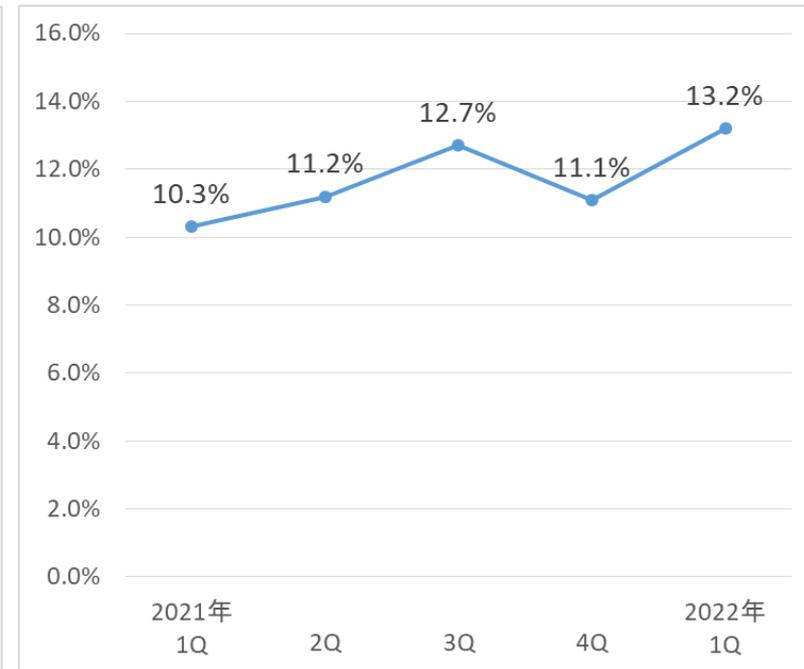


(百万円)

売上高/営業利益



営業利益率



(百万円)

	2021年12月期				2022年12月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	23,683	26,073	27,184	29,812	28,773
営業利益	2,433	2,914	3,443	3,296	3,803
営業利益率	10.3%	11.2%	12.7%	11.1%	13.2%

バルブ事業 売上実績(市場別)

建築設備、石油化学、機械装置及び半導体装置の各市場については、年間計画に対して順調に進捗。水処理は季節要因もありスローなスタートとなった。半導体材料(フィルター)もほぼ順調。機能性化学については、新製品の開発を急ぐ。水素/低炭素は物件の受注活動に注力する。

単位(億円)

		2021年12月期 実績	2022年12月期 計画	2022年12月期 1Q実績	進捗率
Core	建築設備	229	227	70	31%
	石油化学	237	242	63	26%
	水処理	77	80	16	20%
	機械装置	111	109	28	26%
Growth	半導体装置	171	188	47	25%
	半導体材料(フィルター)	37	43	10	23%
	機能性化学	17	21	3	15%
	水素/低炭素	11	22	3	14%
その他		177	190	46	24%
合計		1068	1,122	288	26%

注) 1 2022年12月期より、オーダー入力の仕組みを変え、向け先市場が明確なものを、第1期中期経営計画2024に掲げたターゲット市場に区分して開示します。

注) 2 億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

バルブ事業 売上実績(エリア別)

日本市場は、建築設備向け、半導体装置向けの好調により増収。価格改定も寄与。アセアンは新型コロナウイルスによる低迷から回復の兆し。韓国は半導体装置向けが堅調。中国は不動産業界の停滞や、新型コロナウイルス感染再拡大等により減速。今後、上海のロックダウンの影響が危惧される。米州は石油化学などの工業向けが好調に推移。欧州は、前年同期並みを維持したが、今後、ロシアのウクライナ侵攻による経済減速が懸念される。

単位(億円)

	2021年12月期 実績				2022年12月期 実績	対前年	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	増減額	増減率
日本	153	168	169	184	173	21	13%
海外 合計	84	93	103	114	114	29	36%
アセアン・韓国他	32	33	39	38	44	12	38%
中国	20	24	29	34	24	4	20%
中東	1	1	1	1	1	-	-
アジア計	53	58	70	73	68	15	28%
米州(北米、中南米)	24	27	25	30	36	12	55%
欧州・その他	7	8	8	10	8	1	24%

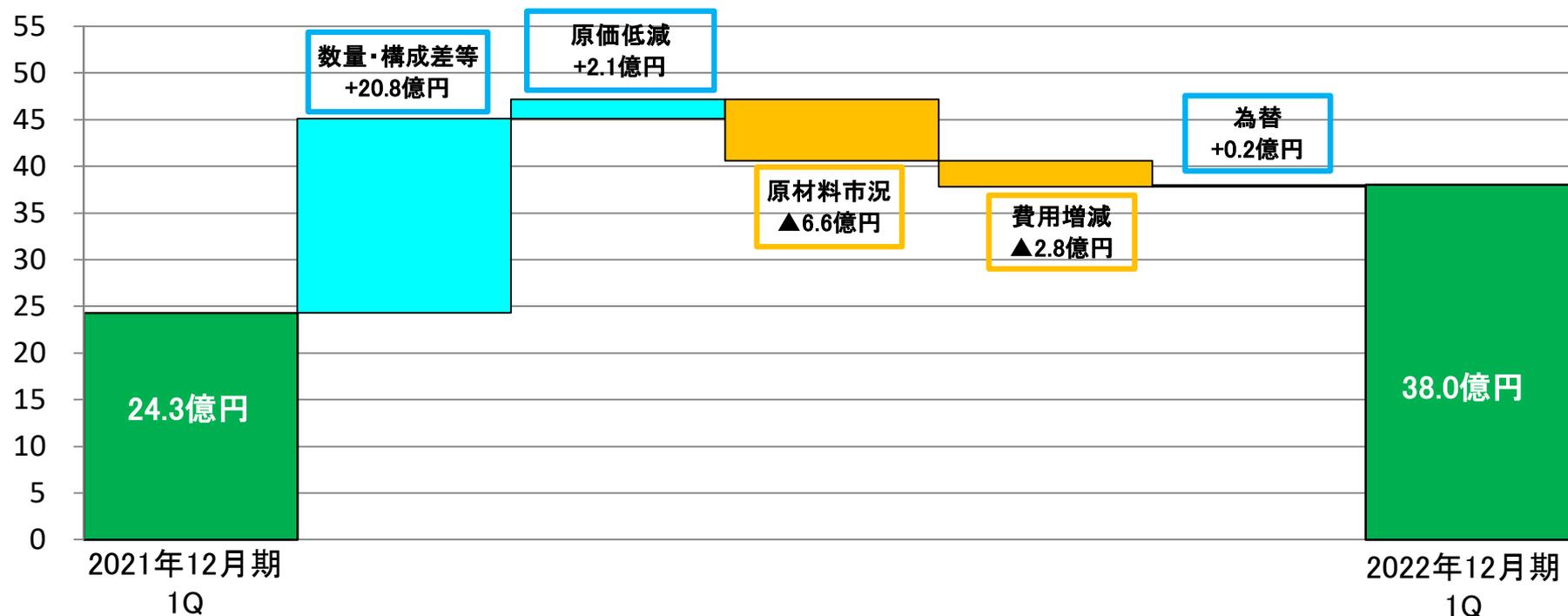
注) 億円単位で表示しているため、累計・合計が一致しない場合があります。

バルブ事業 営業利益増減要因

単位(百万円)

	2021年 12月期 1Q実績	2022年 12月期 1Q計画	2022年 12月期 1Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	23,683	27,100	28,773	5,089	21.5%	1,673	6.2%
営業利益	2,433	3,100	3,803	1,370	56.3%	703	22.7%

(億円)



伸銅品事業の概要

■売上高について

売価に影響を与える原材料相場は上昇が継続し販売単価は上昇。生産量・販売量は堅調に推移。売上高は、前年同一期間比32.4%増の76億43百万円。

■営業利益について

炉の更新工事の不具合発生に伴う製造原価悪化等により、62百万円の営業損失（前年同期は1億87百万円の営業利益）。業界全体でロールマージンの改善を推進しており挽回に努める。

単位(百万円)

	2021年 12月期 1Q 実績	2022年 12月期 1Q計画	2022年 12月期 1Q実績	対前年		対計画	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	5,772	7,100	7,643	1,871	32.4%	543	7.7%
営業利益	187	100	▲62	▲250	-	▲162	-
電気銅建値:円/トン	937,000	1,200,000	1,211,000				



黄銅棒とその加工品



キッツメタルワークス 製造設備

連結営業外・特別損益の状況

単位(百万円)

	2021年12月期 1Q実績	2022年12月期 1Q実績	増減額	主な内訳
営業利益	1,677	2,721	1,044	
■営業外収益	307	267	▲ 40	為替差益(前期52→当期-)
■営業外費用	290	156	▲ 134	為替差損(前期- →当期13) 伸銅品事業ヘッジ差損(前期▲121→当期▲58)
経常利益	1,694	2,832	1,137	
■特別利益	8	0	▲ 7	
■特別損失	6	7	0	
税金等調整前当期純利益	1,696	2,826	1,129	
法人税等	747	920	173	
当期純利益	949	1,905	956	
非支配株主に帰属する当期純利益	30	38	7	
親会社株主に帰属する当期純利益	918	1,866	948	

バランスシート of 状況

売上債権の増加やたな卸資産の増加等により、資産合計は26億89百万円増加。

- 流動資産:現金及び預金の減少 29億83百万円 売上債権の増加 7億97百万円 たな卸資産の増加 37億83百万円
- 固定資産:有形固定資産の増加 16億24百万円 無形固定資産の減少 3億37百万円
- 負債:支払手形及び買掛金の増加 20億95百万円 短・長期借入金の減少 4億9百万円
- 有利子負債は、6億94百万円減少し、390億16百万円(純有利子負債は22億89百万円増加し、140億56百万円)
- 純資産は、親会社に帰属する四半期純利益の計上、為替換算調整勘定の増加等により、33億27百万円増加

単位(百万円)

資産の部	2021年 12月末	2022年 3月末	増減額	負債の部	2021年 12月末	2022年 3月末	増減額
流動資産	86,621	88,197	1,576	流動負債	32,939	32,745	▲ 194
固定資産	56,798	57,911	1,113	固定負債	29,226	28,783	▲ 442
有形固定資産	41,436	43,060	1,624	負債合計	62,166	61,528	▲ 637
無形固定資産	4,590	4,252	▲ 337	純資産合計	81,253	84,581	3,327
投資等	10,772	10,598	▲ 174	負債・純資産 合計	143,419	146,109	2,689
資産合計	143,419	146,109	2,689				

キャッシュ・フローの状況

- 営業活動CF: 税金等調整前四半期純利益28億26百万円、減価償却費16億34百万円、仕入債務の増加16億64百万円。法人税等の支払い23億94百万円、賞与引当金の減少13億35百万円などにより、9億84百万円の資金の増加。
- 投資活動CF: 有形固定資産の取得による支出23億93百万円等により、24億74百万円の資金の減少。
- 財務活動CF: 長期借入金の返済による支出6億46百万円、配当金の支払9億91百万円等により、21億37百万円の資金の減少。

単位(百万円)

	2021年12月期 1Q実績	2022年12月期 1Q実績	増減額	増減率
営業活動CF	2,312	984	▲1,327	-
投資活動CF	▲681	▲2,474	▲1,793	-
フリーCF	1,631	▲1,490	▲3,121	-
財務活動CF	▲1,471	▲2,137	▲665	-
現金等期末残高	34,027	24,657	▲9,369	-

第1四半期の主な経営指標

単位(百万円)

	連結	
	2021年12月期 1Q実績	2022年12月期 1Q実績
売上高	29,772	36,750
営業利益	1,677	2,721
経常利益	1,694	2,832
親会社株主に帰属する 四半期純利益	918	1,866
海外売上高比率	28.9%	32.8%
バルブ事業 海外売上高比率	35.6%	39.6%
有利子負債	48,531	39,016
自己資本比率	53.2%	57.2%
BPS	849.10円	933.33円
EPS	10.24円	20.83円

1 第1四半期決算の概要

2 通期業績見通し

3 最近のトピックス

-補足データ-

2022年12月期 通期業績見通し

単位(百万円)

	2021年 12月期 実績	2022年12月期計画					
		1Q 1-3月 実績	2Q 4-6月	上期	下期	通期	対前年 増減率
売上高	135,790	36,750	32,649	69,400	73,600	143,000	5.3%
営業利益 (率)	8,990 (6.6%)	2,721	1,558	4,280 (6.2%)	5,720 (7.8%)	10,000	11.2%
経常利益 (率)	8,975 (6.6%)	2,832	1,312	4,145	5,555	9,700	8.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (率)	4,954 (3.6%)	1,866	833	2,700	3,600	6,300	27.2%
ROE	6.4%	-	-	-	-	7.6%	
EPS	55.26円	20.83円	-	-	-	70.28円	
ドル:対円	110.39	117.81	128.00				115.00
ユーロ:対円	130.36	131.57	138.90				130.00
電気銅建値:円/トン	1,067,000	1,211,000	1,370,000				1,200,000

<ご参考>

当初想定

(2/10発表)

セグメント別計画

単位(百万円)

売上高	2021年 12月期 実績	2022年12月期計画					
		1Q 1-3月 実績	2Q 4-6月	上期	下期	通期	対前年 増減率
バルブ事業	106,754	28,773	25,426	54,200	58,000	112,200	5.1%
伸銅品事業	27,366	7,643	6,756	14,400	14,600	29,000	6.0%
その他	1,668	333	466	800	1,000	1,800	7.9%
計	135,790	36,750	32,649	69,400	73,600	143,000	5.3%

営業利益	2021年 12月期 実績	2022年12月期計画					
		1Q 1-3月 実績	2Q 4-6月	上期	下期	通期	対前年 増減率
バルブ事業	12,088	3,803	2,536	6,340	7,230	13,570	12.3%
伸銅品事業	665	▲ 62	122	60	470	530	▲ 20.4%
その他	▲ 243	▲ 88	18	▲ 70	70	0	-
調整額	▲ 3,519	▲ 931	▲ 1,118	▲ 2,050	▲ 2,050	▲ 4,100	-
計	8,990	2,721	1,558	4,280	5,720	10,000	11.2%

<ご参考>
当初計画
(2/10発表)

13,300

800

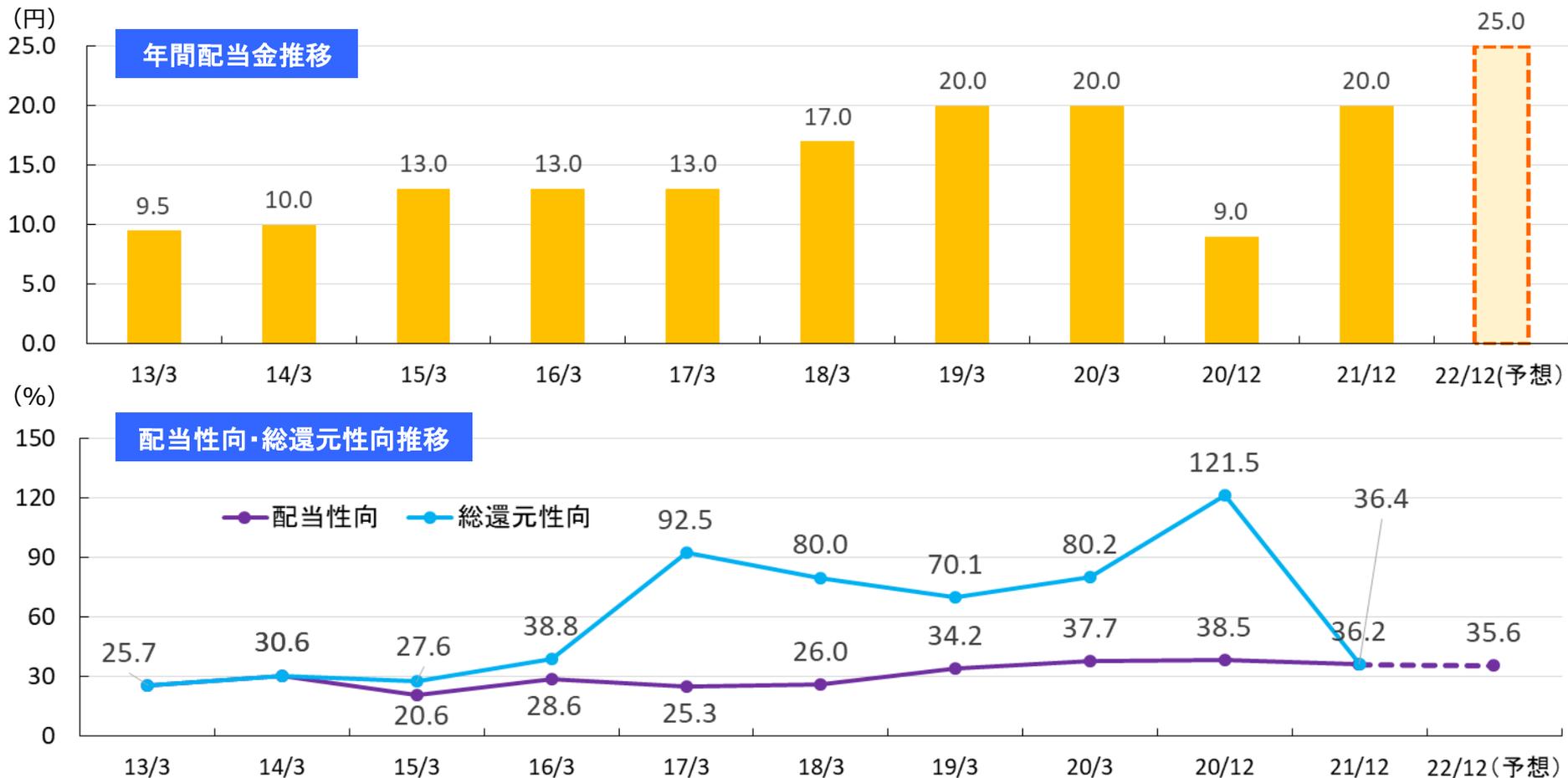
0

▲ 4,100

10,000

株主還元方針

配当性向は、親会社株主に帰属する当期純利益の35%前後を望ましい水準と考えている。2021年12月期は、1株当たり20円(第2四半期末9円、期末11円)。連結配当性向は、親会社株主に帰属する当期純利益の36.2%。2022年12月期は1株当たり25円の配当予想とする(過去最高)。



1 第1四半期決算の概要

2 通期業績見通し

3 最近のトピックス

-補足データ-

イノベーションセンターが稼働開始

3月1日、創業70周年記念事業の一環として、キッツ茅野工場敷地内に建設していた「KITZ Group イノベーションセンター(以下KIC)」及び実験棟が稼働を開始した。キッツグループ発展の基盤となる人財育成、クリエイティブで革新的な技術開発及び社内外への情報発信機能を充実させるとともに、キッツ研修センターの後継施設として社内外の幅広い研修ニーズに応える。



稼働開始に伴い、キッツグループの知名度及びイメージの向上を図ることを目的に、キッツ茅野地区の愛称を「キッツちのテクノパーク」に決定。地域社会をはじめとする社外のステークホルダーに対して、広くPRしていく。

「健康経営優良法人2022」に認定される

キッツグループは、継続的に成長する企業であるためには、社員の健康維持・増進が重要であるとの考えから、2021年に「キッツグループ健康経営宣言」を制定し、これに基づいて健康経営に向けた取り組みを行っている。2022年3月9日、経済産業省及び日本健康会議が共同で実施する健康経営優良法人認定制度の大規模法人部門において「健康経営優良法人2022」に認定された。

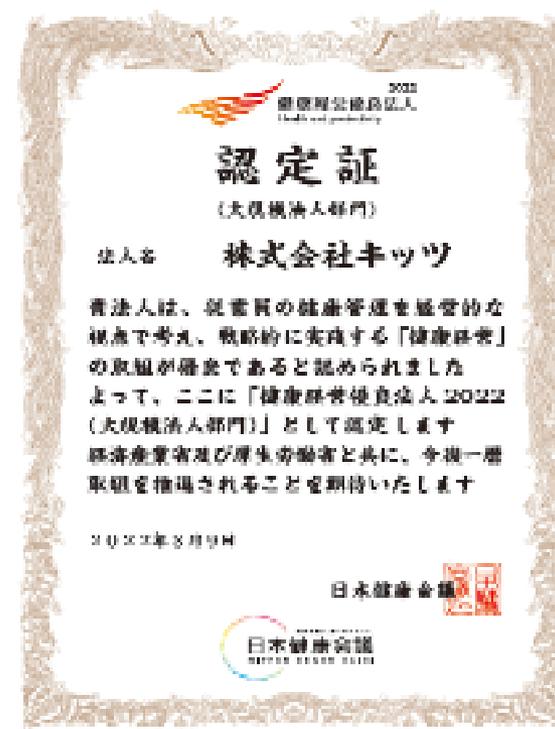
健康経営について、ESGを軸とするサステナビリティ経営の重要なテーマの一つと捉え、今後もさらなる取り組みを推進していく。

■キッツグループ健康経営宣言

私たちは、従業員の心身の健康増進を図ることにより、個々の能力や個性を最大限に発揮し、健康でいきいきと働くことができる会社を目指します。

■健康経営優良法人認定制度とは

地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優れた健康経営を実践している法人を顕彰する制度であり毎年実施される評価に基づいて認定される。



東京五輪金メダリスト 須崎優衣選手が入社

4月1日、東京2020オリンピックレスリング日本代表 金メダリストの須崎優衣選手がキッツに入社。須崎選手はキッツの本社が所在する千葉県出身のアスリートで、オリンピックが一年延期される困難な環境においても真摯に競技と向き合い、全試合無失点で金メダルに輝いた。逆境にあっても常に高みを目指す須崎選手の姿勢に共感し、競技活動を支援することとした。

■須崎 優衣 選手のプロフィール

競技種目	レスリング
生年月日	1999年6月30日
出身地	千葉県松戸市
出身校	早稲田大学



山梨県とグリーン水素基本合意書を締結

4月14日、山梨県甲府市の米倉山電力貯蔵技術研究サイトのP2Gシステムで製造したグリーン水素を、キッツ長坂工場水素ステーションで利用することについて、山梨県と基本合意書を締結した。P2Gシステムで製造したグリーン水素年間 7200Nm³(予定)を、長坂工場内の水素ステーションへ輸送、工場内で使用する燃料電池フォークリフト等の燃料として利用する社会実証を開始する。



■グリーン水素とは

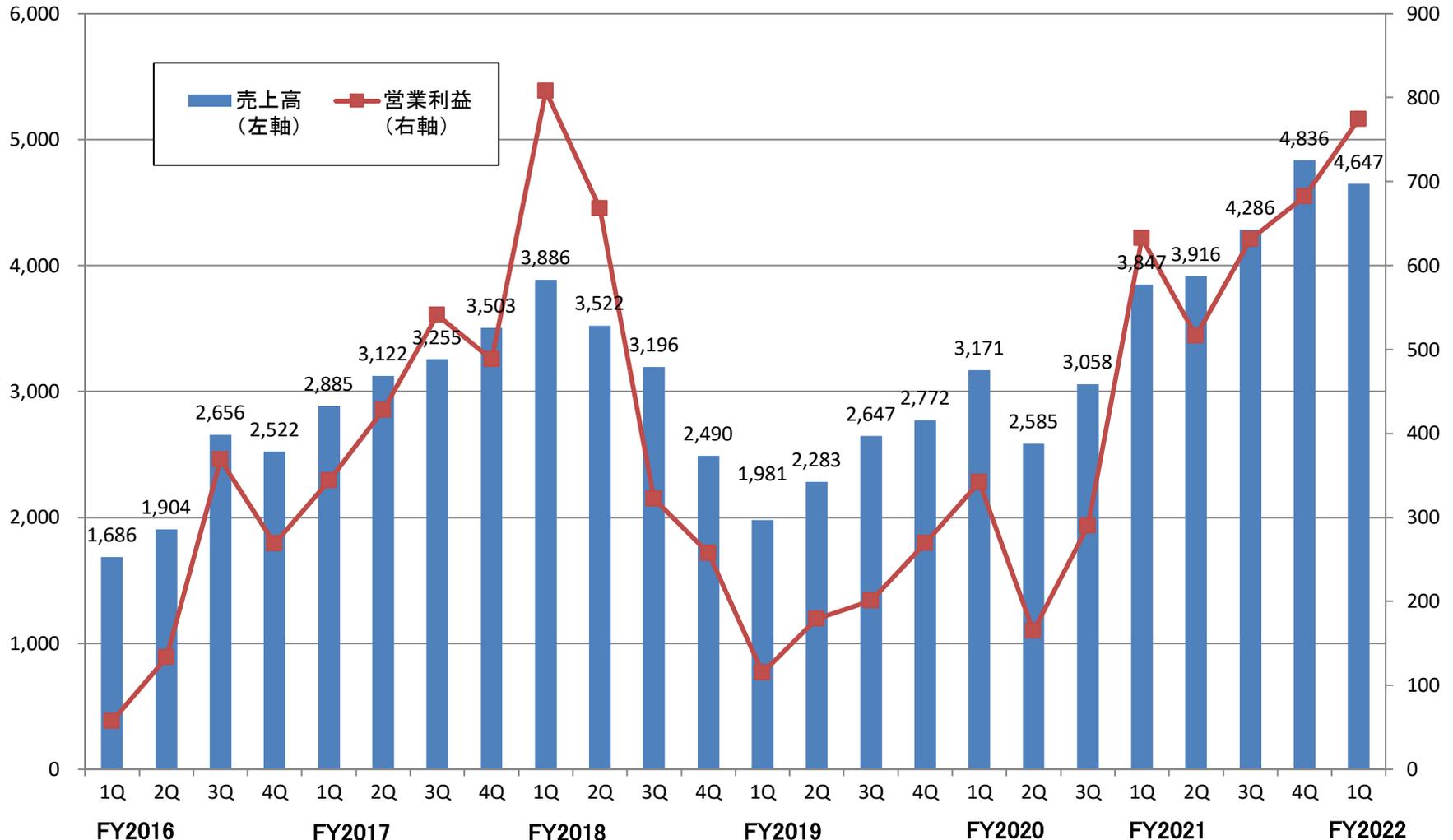
再生可能エネルギー等由来の電力を使用し、製造工程においてCO₂を排出せずに作られた水素のことを指す。再生可能エネルギーの導入拡大と温室効果ガスの削減において世界的に期待されている。

KITZ

ご清聴ありがとうございました。

四半期業績推移(半導体向け)

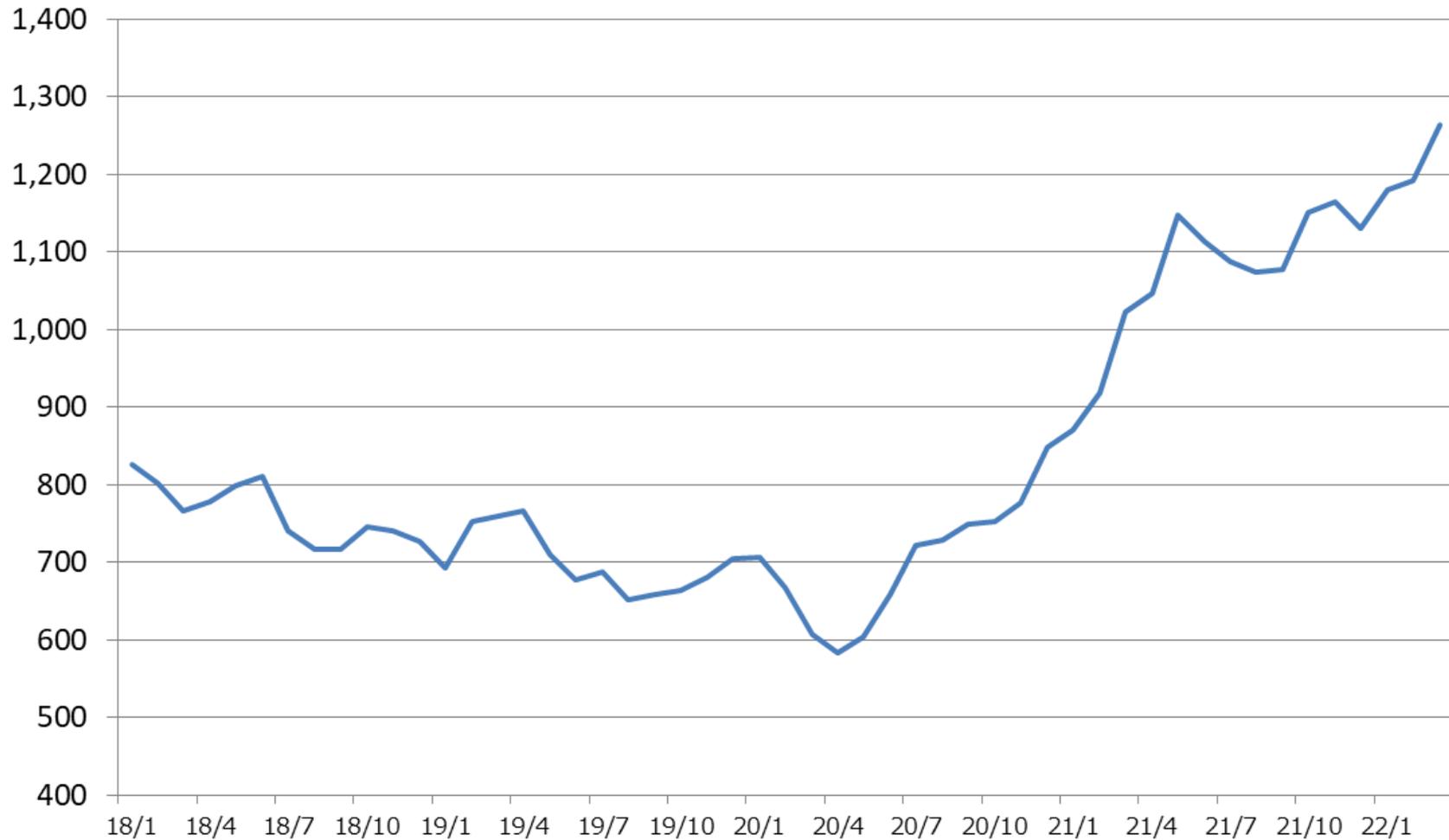
(百万円)



- ・半導体向け製品を製造・販売する株式会社キッツエスシーティーの売上高・営業利益を四半期(3カ月)毎に表示。
- ・連結消去前のため、連結決算数値とは差異があります。

電気銅建値推移

(千円/ton)



原油価格推移

(USD/バレル)

